

## 演題名：サブスペシャリティ別の外科修練の特徴は～全国アンケート調査二次解析

**[演者]**谷河 篤:1, 松尾 知平:2

**[共同演者]**パウデル サシーム:3, 古来 貴寛:4, 喜安 佳之:5, 高村 卓志:6, 高木 弘誠:7, 須田 千秋:8, 東 陽子:9, 齊藤 光江 10

1. 東北大学病院高度救命救急センター
2. 筑波大学附属病院乳腺甲状腺内分泌外科
3. 北海道大学消化器外科 II
4. 札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科
5. 京都大学消化管外科
6. 藤沢湘南台病院外科
7. 岡山大学消化器外科学
8. 佐久医療センター救命救急センター
9. 東邦大学医学部外科学講座呼吸器外科学分野
10. 順天堂大学乳腺腫瘍学講座

**【背景】**外科の細分化と手術の高度化に伴い、外科領域のサブスペシャリティの必要性は高まっている。サブスペシャリティ専門医の取得を目指す多くの外科修練医は、各サブスペシャリティ外科に所属しながら外科専門医を取得することが多い。一方、外科専門医の取得に必要な条件はサブスペシャリティに関わらず統一されており、目標とするサブスペシャリティによっては外科修練プログラムの実態や満足度が異なる可能性がある。

**【目的】**外科修練時におけるサブスペシャリティ別の特徴を明らかにする。

**【方法】**令和 3～4 年度に外科専門医試験合格者を対象としたアンケート調査の二次解析。サブスペシャリティを消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、小児外科、Acute care surgery (ACS)、その他の 7 群に分類し、検討した。

**【結果】**サブスペシャリティの回答者は 756 名。消化器外科 399 名、心臓血管外科 87 名、呼吸器外科 86 名、乳腺内分泌外科 93 名、小児外科 48 名、ACS 27 名、その他 16 名であった。全体では男性が 7 割を占めていたが、乳腺内分泌外科では女性が 7 割を占めていた。医師免許取得から最短で外科専門医を取得した者は、全体で 71.5%であったが、心臓血管外科は 64.3%、ACS は 40.7%と低かった。外科修練中の全身麻酔を伴う全手術執刀件数は、全体で“201～300 件”と回答した者が 30.7%と最多であったが、心臓血管外科と呼吸器外科は“101～200 件”と回答した者が 50.0%、43.5%と最多であった。外科修練満足度では心臓血管外科と乳腺内分泌外科では約 2 割が“不満”と回答し、全体に比べて多かった。どのサブスペシャリティでも症例経験が難しい領域は“外傷”であった。

**【考察】**男女比、外科専門医取得年数、手術件数、満足度などに特徴を認めた。手術件数に

違いを認めたと、疾患頻度や手術難易度が異なることが考えられる。また、外科修練満足度における不満の原因は、目標とするサブスペシャリティと外科修練の相違による可能性がある。

**【結語】**“メスを握る者”として認められる外科専門医の育成とともにサブスペシャリティを考慮した外科プログラムのさらなる発展に期待する。